

第12回 熊本県医療人育成総合会議

主催：公益財団法人肥後医育振興会 後援：熊本日日新聞社
協力：高橋酒造株式会社、一般財団法人化学及血清療法研究所



約100人が参加した第12回熊本県医療人育成総合会議＝熊本
市中央区本荘の熊本大学医学部キャンパス

講演④ 医療系大学における学生へのワクチン接種とその課題

尾池 雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(医学科長)

門岡 康弘氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(教育・教務委員会委員長)

全体司会

熊本保健科学大学では今年7～9月にかけてモデルナワクチンによる職域接種を行いました。重篤な副反応の発生に備えて事前に消防署や病院との連携体制を整えました。学生には教員を通じて事前に周知し、接種日は学年・学科ごとに接種当日と翌日に対面授業がない日に設定しました。学部学生の89・1％が2回接種し、1回目の副反応が強かった4人は2回目接種を回避しました。接種2回目の副反応では男性の84・9％、女性の87・1％に37・5度以上の発熱がありました。

来年4月以降に3回目のワクチン接種の予定ですが、交差接種を含めて新入生への対応、接種回避者が増加した場合の対応などが課題です。

奈良 信雄氏
常勤理事 一般社団法人熊本県医療人育成評価機構

講演⑥ ウイズコロナ、ポストコロナ時代の医学教育

ピンチをチャンスに！

コロナ禍が医学教育に与えた悪い影響は以下の通りです。①双方方向の対面教育が行えず、教員や学生、医療スタッフなどのコミュニケーションが取れない②臨床実習では患者や家族と接触できないので、真の意味で診療参加型の臨床実習ができない③コミュニケーション、医療面接、身体診察などの訓練が困難④解剖実習などの実習や実験が制限され、効果的な学習や研究活動が十分行えない⑤海外実習など国内外機関との交流が制限されるなど。その一方で、良かった点もあります。①オンデマンド(動画の随時再生)型講義は反復して学習でき、知識の修得に役立つ②eラーニング、シミュレーション教育などで能動的学習が推進され、問題解決能力や生涯学習能力などが養成されたと感じています。③感染症対策への理解が深まった点です。現在のピンチをチャンスにしなければなりません。それには、従来の対面型教育に遠隔分散教育(DD)を加え、自学自習力の推進、オンライン教育の活用、シミュレーション教育や遠隔医療に関する教育の充実が求められます。また一方で、学生側も能動的学習の姿勢を身に付け、学生時代に学び方を学んでほしいと思います。

総合討論

尾池 今年になって新型コロナウイルスに対するワクチン接種が行われ、その後は対面による臨床実習が増えてきたようです。最近では3回目接種や製造元が異なるワクチンを使う交差接種が話題になり、接種を希望しない学生への対応も課題です。

押海 ワクチンの交差接種については理論的に問題ないのですが、安全性については慎重に検証する必要があります。3回目を接種しても時間の経過とともに免疫力を示す抗体価が落ちることが分かっています。そこで4回目の検討もなされるかもしれませんが、インフルエンザとは異なるため、現段階で接種の是非については見通せません。

山本 ワクチンを筋肉に入れる意味は何でしょうか。

押海 効果性の点で筋肉に打つ方がリンパ節に抗原が運ばれやすいといわれています。それで安全性も確認されたためでしょう。

尾池 接種を希望しない学生に不利益にならないようにする必要もあるかと思っています。

竹屋 ワクチンの効果によって感染が落ちてきている事実をさらに学生に周知するようにしなければなりません。より安全性の高い不活化ワクチンの承認を待つことも選択肢の一つで、そうなれば交差接種の選択肢が増える可能性もあります。

山本 ワクチン接種を希望しない医学系学生

パンデミック下の病院実習とワクチン接種

尾池 雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(医学科長)

門岡 康弘氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(教育・教務委員会委員長)

全体司会

講演④ 医療系大学における学生へのワクチン接種とその課題

尾池 雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(医学科長)

門岡 康弘氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(教育・教務委員会委員長)

全体司会

熊本保健科学大学では今年7～9月にかけてモデルナワクチンによる職域接種を行いました。重篤な副反応の発生に備えて事前に消防署や病院との連携体制を整えました。学生には教員を通じて事前に周知し、接種日は学年・学科ごとに接種当日と翌日に対面授業がない日に設定しました。学部学生の89・1％が2回接種し、1回目の副反応が強かった4人は2回目接種を回避しました。接種2回目の副反応では男性の84・9％、女性の87・1％に37・5度以上の発熱がありました。

来年4月以降に3回目のワクチン接種の予定ですが、交差接種を含めて新入生への対応、接種回避者が増加した場合の対応などが課題です。

橋本 伸朗氏
常勤理事 一般社団法人熊本県医療人育成評価機構

講演⑤ 市中病院における臨床実習受け入れとワクチン接種の現状

臨床実習断らない方針

当院は臨床研修指定病院や日本救急医学会指導医指定など、認定を受けています。PCR検査陰性やワクチン接種歴の証明などを実習受け入れの条件とはせず、基本的な行動自粛と標準的な感染予防策、健康観察と報告を徹底して年度は依頼先からの辞退があり、臨床実習の受け入れは305人(約55%)。今年度は院内に新型コロナウイルス感染者が出た病棟を、時間鎖した期間があったため、11月1日までの実習受け入れは430人(約80%)の状況です。ワクチン職域接種率は84・3％(1375人中1118人)。第5波の期間に発症した職員9人中4人がいわゆるフレックスル感染で、いずれも濃厚接触に当たる会食を行っていたことが分かりました。それらのことから、ワクチンの接種歴にかかわらず感染予防の徹底が重要であるとの教訓を得ました。

総合討論

馬場 今の学生はテレビを見ない、新聞を読まない、情報源はSNS(会員制交流サイト)などが主なので、間違った情報を信じて拒絶しているように思われます。そこで本学ではeラーニングで正しい情報が得られるようにしました。ただ、正しい情報を得ている医療従事者の中にも接種を拒否する人がいるので大学病院として、そうした人の意思を尊重する必要があると考えています。ただ、重症患者は免疫力が落ちた状態なので、ワクチン未接種の医療従事者からの感染が起きないように、重症患者には接種者が接しています。

橋本 看護学生の中には、本人は接種を希望していても親に打つと言われた人がいました。一方、医療従事者はワクチンに関する知識が十分にあって、mRNAワクチンを打った後20年、30年先のことが心配なので、自分は打つが子どもには打たせたくないと思える人もいました。そうした考えは無視できないと思われます。

会場から 熊本大医学部法医学講座の西谷です。私はネットで学生からの匿名相談を受け付けています。その立場から申しますと、学生の気持ちは揺れ動きやすいものです。たとえ学生がワクチンを接種しないと宣言したとしても、それを重大な決意と決め付けず、接種を受ける気になったときに本人を非難しないようにしなければなりません。

実習体制の課題克服へ

尾池 雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(医学科長)

門岡 康弘氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(教育・教務委員会委員長)

全体司会

講演④ 医療系大学における学生へのワクチン接種とその課題

尾池 雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(医学科長)

門岡 康弘氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授(教育・教務委員会委員長)

全体司会

熊本保健科学大学では今年7～9月にかけてモデルナワクチンによる職域接種を行いました。重篤な副反応の発生に備えて事前に消防署や病院との連携体制を整えました。学生には教員を通じて事前に周知し、接種日は学年・学科ごとに接種当日と翌日に対面授業がない日に設定しました。学部学生の89・1％が2回接種し、1回目の副反応が強かった4人は2回目接種を回避しました。接種2回目の副反応では男性の84・9％、女性の87・1％に37・5度以上の発熱がありました。

来年4月以降に3回目のワクチン接種の予定ですが、交差接種を含めて新入生への対応、接種回避者が増加した場合の対応などが課題です。

橋本 伸朗氏
常勤理事 一般社団法人熊本県医療人育成評価機構

講演⑤ 市中病院における臨床実習受け入れとワクチン接種の現状

臨床実習断らない方針

当院は臨床研修指定病院や日本救急医学会指導医指定など、認定を受けています。PCR検査陰性やワクチン接種歴の証明などを実習受け入れの条件とはせず、基本的な行動自粛と標準的な感染予防策、健康観察と報告を徹底して年度は依頼先からの辞退があり、臨床実習の受け入れは305人(約55%)。今年度は院内に新型コロナウイルス感染者が出た病棟を、時間鎖した期間があったため、11月1日までの実習受け入れは430人(約80%)の状況です。ワクチン職域接種率は84・3％(1375人中1118人)。第5波の期間に発症した職員9人中4人がいわゆるフレックスル感染で、いずれも濃厚接触に当たる会食を行っていたことが分かりました。それらのことから、ワクチンの接種歴にかかわらず感染予防の徹底が重要であるとの教訓を得ました。

熊本のより良い医療・福祉の実現と、それを支える人材の育成を目指す第12回熊本県医療人育成総合会議(実行委員長・片淵秀隆肥後医育振興会常任理事)が11月23日、熊本市中央区本荘の熊本大学医学部キャンパスで開かれた。山本哲郎・肥後医育振興会副理事長の主催者あいさつの後、「パンデミック下の病院実習とワクチン接種」をテーマに、臨床実習に関わる6人が講演。登壇者による総合討論が行われ、コロナ禍の中での実習とワクチン接種の課題について意見を交わした。

なお、同会議は感染症対策を行い、参加人数を制限したうえで開催された。

押海 裕之氏
熊本大学大学院生命科学研究部 教授

講演② mRNAワクチンの機序と新型コロナウイルスの展望

世界初のワクチン使用

ワクチン開発の歴史の中で2020年はmRNAワクチンが初めて使用された年となりました。このワクチンは、新型コロナウイルスの遺伝子配列情報を基にタンパク質が合成されるもので、接種を繰り返すことで免疫の質が向上します。mRNAワクチンの長所を挙げると、短期間で大量生産が可能、予防効果が高く、高齢者にも効果がある。また短所に挙げた副反応は、抗原であるペプチク強く、新しいワクチンであるために長期的な影響などは、今後慎重に調査が必要などです。

新型コロナウイルスに感染した人の免疫力を示す抗体価を調べた報告書によると、若い人を中心に感染したにもかかわらず抗体価が低い状態の人がいることが分かっています。そうした人にもワクチンは有効で、不活化ワクチンなどが使われる可能性もあります。

講演③ 熊大病院における臨床実習とワクチン接種

馬場 秀夫氏
熊本大学病院 院長

講演③ 熊大病院における臨床実習とワクチン接種

ワクチンで感染予防を

熊大病院はコロナ禍における県内医療体制維持に向けた調整役となりました。また重症患者を積極的に受け入れ、大阪府や兵庫県、沖縄県や東京都など県外へも看護士を派遣しました。そのよな大学病院において臨床実習を行うためには、自分を守り、患者を守る観点から極力感染しにくい状況にしておくことが求められます。手洗い、マスク着用、密閉・密集・密接を避けるなどの感染防止策に加え、ワクチン接種が最も重要であることは、臨床実習を行う学生も同じです。

ワクチンの効果については、時間とともに感染・発症予防効果は減少する半面、重症予防効果は維持されることが分かっています。そこで第6波の到来に向け、3回目の接種を行うことが重要であると考えています。

総合討論

尾池 ここで少し話題を変えます。コロナ禍の中でコンピューターを使ったテスト「CBT」の点数が全国的に上がっているようです。熊本大も同様で、ネットやeラーニングなどを使ったハイブリッド型教育の効果なのかもしれません。心配なのは、現在の教育が知識偏重型になっていないかということです。

奈良 態度や技能の訓練はオンラインではできません。AI(人工知能)が進歩したとしても、医療人はコミュニケーション能力向上への努力を怠ってはならないと思います。

片淵 コロナ禍にあっても医師国家試験の成績は悪くない状況です。学生は自分のペースで、試験対策を上手にこなしているように感じられます。

会場から 熊本大医学科5年生の井上です。私が臨床実習に入ったときはコロナ禍にあり、患者さんと接する機会がほとんどない状況でした。患者さんと接する機会を持つことができれば、今後は私たちの感じ方も変わってくるかもしれないと思います。

門岡 本日は会場に臨床実習に関わる教職の方々がたくさん参加されていますので、コロナ禍における実習の効果を高めるための指導法について提案などをお聞かせください。



総合討論では会場からの質問も含め、活発な意見が交わされた

古川 実際の症例や訪問看護時の事例などのケーススタディーをしていくことは重要です。ただやはり実際の患者さんやその家族の方と接する体験からの学びには及ばないので、感染状況が落ち着いた時期に可能な限り患者さんと接する臨床実習を行うことをお勧めします。またeラーニングを臨床実習後の講義に組み合わせることは効率的な学びだけでなく、患者さんと接する時間の確保にもつながるのではないかと思います。

奈良 eラーニングのコンテンツは、実際の臨床例に則した質の高いものを用意してください。それから医療者教育のために患者役を演じられる人=SP(Simulated Patients)さんがいるので、SPさんとオンラインで対面することでコミュニケーション技法の訓練を行うこと。そうしたことが今できることだと思います。

片淵 コロナ禍の中でワクチンと臨床実習をどうすべきか、パネリストの皆さんの貴重なご意見を参考にしていきたいと存じます。

橋本 伸朗氏／親の意見に振り回される学生もコミュニケーション能力向上を／奈良 信雄氏